

## 第2号議案 2014年度 事業報告

### (1) 年次大会(第113回研究討論会)

#### 「Imaging Conference JAPAN 2014」開催報告

実行委員長：市原美幸，実行副委員長：服部好弘，橋本清文

2014年6月11日(水)～13日(金)の3日間，日本画像学会年次大会(通算113回)「Imaging Conference JAPAN 2014」を横浜市緑区にある，東京工業大学すずかけ台キャンパスすずかけホールにて開催しました。

本大会では，プリンターやデジタル印刷機などのハードコピー関連技術、電子ペーパー/エレクトロニックイメージングに適用する表示デバイス技術，画像の入力や画像認識・画像再現などを扱うデジタル画像処理技術，新規イメージング技術，シミュレーション技術，グリーンテクノロジーなど，全部で8技術分野の最新技術発表を集め，17のセッションを設けて討論いたしました。一般講演69件(受賞記念講演2件を含む)に加え，招待講演6件(キーノートスピーチ3件，特別講演3件)をお招きし，併設イベントとして，パネルディスカッションを中心とした特別セッション1件，ワークショップ3件，ラウンドテーブル1件，および関連企業12社による展示会を開催しました。

今年度より年次大会は，常設のICJ企画委員会が継続的ビジョンを持って大会コンセプトの制定，招待講演や関連イベントの企画を行い，単年度で組織されるICJ実行委員会が運営する体制となりました。今回制定された年次大会の基本コンセプト「豊かな画像空間の創造を目指す」を受け，本年度は、『魅せるイメージング技術：撮る、創る、伝える』を大会コンセプトとし、画像情報の入力・処理・出力のそれぞれの場面で、人間の視覚や画像認識がとらえることができる情報や価値を抽出し、活用していくための技術に焦点を当てた企画がなされました。情報伝達媒体としての画像に、情報発信者の意図がどれだけ付加できるのか、受け手にとっての利用価値が高められるのか、を「魅せる」という表現に託し、様々な生活シーンでの画像情報の活用例をご紹介できたことが，本大会の大きな成果だったと考えます。具体例としましては，3D入出力や，医療，コスメ，バイオなどの分野につながる話題提供，ホログラムや電子透かし技術の応用事例，粉体の付着力解明への新たなアプローチなど，例年にはない多彩なイメージング技術の展開に「魅せられた」と感じていただけたら幸いです。

大会初日(11日)は，市原美幸実行委員長(コニカミノルタ)の開会挨拶に始まり，キーノートスピーチ「画像による3次元形状計測技術の最新の動向と将来展望」を宇都宮大学大谷幸利教授よりご講演いただきました。近年急速に実用化が進む画像による3次元入力の各種方式を，基本原理が考案されてから実用化への進化や変遷をたどるとともに，今後期待される高精度化，高速化，高空間分解能化への展望が示されました。

同日午後には，特別セッションとして，「『魅せるイメージング』～撮る・創る・伝える，その現場から～」というテーマで，株式会社トッパングラフィックコミュニケーションズのプリンティングディレクター，小島勉様の司会進行で，パネルディスカッションが行われました。

パネラーは、写真家の渡辺達生様(株式会社 TWO)、雑誌編集者の川本康様(株式会社玄光社)、プリンティングディレクターの松平光弘様(株式会社アフロ、アフロアトリエ)の3名で、それぞれに撮りたい、創りたい、伝えたい、という欲求の頂点に立つ方々によって繰り広げられたプリンター談義は、プロフェッショナルとしての鋭い洞察と感性に満ちた話題で盛り上がりました。

一般セッションでは、一日目は、インタラクティブセッションおよび、色・画像に関する2セッションが持たれました。インタラクティブセッションでは、ベストポスター賞、編集委員長賞の審査が行われ、ベストポスター賞に「AFM-IR によるナノスケールでのトナー粒子中の組成分布分析」(東レリサーチセンター 日下田成様ほか)、編集委員長賞に「非ハロゲン溶媒を用いたベンゾチエノベンゾチオフェン誘導体電界効果トランジスタの作製」(大阪府立大学 中道諒介様ほか)が選ばれ、同夕に行われた懇親会の席で表彰されました。

大会二日目(12日)は、キーノートスピーチとして「肌質感の解析と合成」を、千葉大学津村徳道准教授よりご講演いただきました。ヘモグロビン色素とメラニン色素を考慮した物理特性と皮膚生理に基づく画像処理により、様々な質感の顔色を合成する研究では、年齢や生活習慣による肌質の差を画面上で再現させる技術が紹介され、医療や化粧品開発への応用とともに、質感の解析手法としての展開への期待が示されました。

午後は、特別講演「電子透かし技術を利用した印刷物やサイネージ映像からの付加情報の抽出」を大阪府立大学 岩田基助教よりいただきました。電子透かしの埋め込まれた画像に、スマートフォンのカメラをかざすことで、埋め込まれた情報が抽出できるアプリケーションはご講演後に実演もしていただき、実用に近い技術として関心を集めました。

二日目の一般講演では、上述の特別講演につづく画像認証・電子透かしのセッション、電子写真やインクジェットなどのプリンティング技術のセッションおよび、電子ペーパーを含む有機電子デバイスのセッションが行われました。並行してワークショップが2件開催され、「高速インクジェットの現状と今後：プロダクション市場での成功の鍵は？」では、JAGAT の郡司秀明様の話題提供で、急速に変わりつつある高速オンデマンド印刷市場へのインクジェットの進出の現状と課題および将来展望が議論されました。「焼成不要の銀ナノインクを用いた電子回路作成～ペンを使って自由に回路を描いてみよう～」では、川原圭博准教授(東京大学)、清水信哉様(AgIC株式会社)のご指導で、参加者が実際に銀ナノ粒子インクで電子回路を作成する体験をしました。いずれのワークショップも定員を上回る参加者で盛況を博しました。

三日目最終日(13日)のキーノートスピーチは、中央大学副学長、加藤俊一教授より「画像の見え方・魅せ方」と題したご講演をいただきました。人間が画像から受ける主観的な印象、感性にも規則性があり、視覚特性を考慮した画像特徴量から、同じ印象を受ける画像が高い適合率で抽出できる手法の紹介がされました。高い感性を持った個人や企業の発するブランドイメージのモデル化など、感性工学が実現すべき用途、課題についても示唆されました。

続いて、リコー株式会社瀬尾学様による論文賞受賞記念講演、早稲田大学梅津信二郎准教授による日本画像学会コニカミノルタ科学技術振興財団研究奨励賞受賞講演が行われました。梅津先生からは、高粘性な液体の高精度な吐出が可能な静電インクジェットによるバイオプリンティングへの適用事例が報告されました。昼食を挟んで2件の特別講演が行われました。パイオニア株式会社佐藤充様からは、「ホログラムプリンターとその応用事例」として、特別な除

震装置を必要とせず、コンピュータグラフィクスなどの3次元形状データから誰にでも簡単にホログラムの作製を可能としたコンパクトなホログラムプリンターの開発事例と適用例を紹介いただきました。また、特許庁河合弘明様より、「3Dプリンタに関する特許出願技術動向調査について」として、平成25年度の調査テーマとして実施された3Dプリンタの特許出願技術動向調査結果を報告いただきました。調査結果概要は講演の翌週17日に特許庁のウェブサイトに掲載されています。

最終日の一般講演では、シミュレーション技術、計測技術、電子写真材料技術、新規イメージングおよびグリーンテクノロジーのセッションに加えて、トナー粒子の帯電と付着力に関するセッションが行われました。ここでは、トナー技術部会とシミュレーション技術部会による共同研究を含めて、トナーの付着力の解明に取り組んだ報告が集められ、活発な議論が行われました。また、セッションと並行して、ラウンドテーブルおよびワークショップが行われました。ラウンドテーブルでは「画像関連学会連合会への期待と課題」として4月に発足した画像学会連合会に所属する関連4学会の会長の方々にお集まりいただき、その期待するところと具体的な活動の内容について議論がなされました。本大会3件目のワークショップは、「3Dプリンターの拡大する応用、そして期待される技術とは？」と題して、3Dプリンターを活用して新たなビジネスを広げている有限会社コスモ・ファンシー齋藤公誉様からの話題提供をいただき、この技術が今後発展すべき方向が議論されました。このワークショップも定員を超える参加者で盛り上がりました。

3日間を通じて、ラウンジで開催しました展示会では、12社の技術展示が行われました。本大会の参加者は、講師、委員を含め392名、ワークショップ参加者は3件延べで111名でした。昨年比で微減はしたものの、あいにくの天候のため会場に留まる方が多かったせいも、会場内の賑わいとしては昨年を上回っていたのではないかと思います。東京工業大学をお借りしての大会も今回で3回目となり、前年度までに発生した運営上の不手際についても、少しずつ改善を図って参りましたが、まだ引き継ぎ不十分で、関係者にご迷惑をおかけした点がございましたこと、お詫び申し上げます。本大会を運営するにあたってご協力いただきました、東京工業大学関係者の皆様、大会実行委員の皆様、座長の皆様、学会理事・評議員の皆様、そして、発表者の皆様と発表を支えていただいたご所属の関係者の皆様に、厚く御礼申し上げます。来年度は国際学会となり、ICJとしての開催は再来年になりますが、次回も引き続きご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

2014年度 日本画像学会年次大会 実行副委員長：服部好弘（コニカミノルタ株式会社）  
プログラムは本稿後半に記載。



## (2) 総会

2014年 6月 11日 Imaging Conference JAPAN 2014(ICJ2014) 開催初日に東京工業大学すずかけホールにおいて第57回定時総会を開催した。2012年度からは出欠連絡と各議案の賛否投票についてはweb回答可能な会員にはハガキ送付を廃止したが今年度の個人会員の回答率は59.0%であった。回答率の推移は、2011年度：62.7%で、2012年度63.6%、2013年度63%で今年度はweb回答者数が減少したことから前年より多少少なくなっている。

会員へのweb回答への更なる告知，回答の促進が必要であるとの認識を持った。

第57回総会は半那会長の挨拶の後、半那会長を議長に選出して議事に入り、以下の議案について提案と報告が行われ、委任状を含み大多数の賛成により承認された。

2014-15年度役員候補の承認（第1号議案）

2013年度事業報告、同収支決算および監査報告の承認（第2号議案、第3号議案）

2014年度事業計画および同収支予算の報告（第4号議案）

第56回定時総会の議案と議事録は、当学会ホームページからもご覧いただけます。

[http://www.isj-imaging.org/about\\_ISJ/assembly.html](http://www.isj-imaging.org/about_ISJ/assembly.html)

## (3) 2013年度 日本画像学会表彰

日本画像学会は選奨規定に則り、2013年度学会賞、功労賞、論文賞、研究奨励賞、会長特賞、名誉会員、フェロー、技術賞、技術研究賞、日本画像学会コニカミノルタ科学技術振興財団研究奨励賞の選考を行い、2014年6月11日開催の表彰式の席上で表彰と各賞の贈呈を行った。各受賞者は以下の通りである。

（敬称略）掲載号：日本画像学会誌，第53巻，第4号，（通巻第210号）， pp. 316-329

<学会賞（第20回）1件>

面谷信（東海大学）

<功労賞（第20回）1件>

中居仁司（ブラザー工業株式会社）

<論文賞（第28回）2件>

著者：村山雄亮、井手亜里（京都大学）

論文名：「ベイズ統計によるマルチバンドスキャン画像の波長・空間領域の同時復元」

掲載号：日本画像学会誌，第52巻，第5号，（通巻第205号）， pp. 400 - 405

著者：須原浩之（株式会社リコー）

論文名：「High-Resolution Measurement of Electrostatic Latent Image Formed on Photoconductor Using Electron Beam Probe」

掲載号：日本画像学会誌，第52巻，第6号，（通巻第206号）， pp. 501 - 508

<研究奨励賞(第21回)3件>

田中孝幸（キヤノン株式会社）

「部分帯電したトナーの静電付着力の測定」

Imaging Conference Japan 2013, pp. 107 - 110

坪井彩子（千葉大学）

「電解析出銀粒子の粒径制御に基づく新規カラー反射型 EC 表示」

Imaging Conference Japan 2013, pp. 269-272

佐竹まどか（同志社大学）

「新規帯電モデルによる画像形成用トナー微粒子帯電量分布の推算」

Imaging Conference Japan Fall 2013, pp. 1-4

<会長特賞（第14回） 3件>

酒井真理（東京大学大学院）

神野文夫（王子ネピア株式会社）

竹内達夫（キヤノン株式会社）

<名誉会員（第8回） 2件>

水口 仁

中山喜萬

<フェロー（第1回） 8件>

上原利夫（日本トレック株式会社）

上原康博（富士ゼロックス株式会社）

面谷 信（東海大学）

川本広行（早稲田大学）

内藤裕義（大阪府立大学）

西 眞一（コニカミノルタ株式会社）

星野勝義（千葉大学）

堀田吉彦（株式会社リコー）

<技術賞（第24回）3件>

技術：「Loops（用紙リユースシステム）」

東芝テック株式会社 吉田稔、中村鐵也、八幡伊佐雄、樺井隆人、木野内聡

技術：「AC 転写技術」

株式会社リコー 青木信次、飯村治雄、荻野尉彦、中村圭吾

技術：「プロダクションインクジェットプリンター用コート紙「SWORD iJET」の開発」

三菱製紙株式会社 名越応昇、兼子 了、遠藤 哉、高田秀樹、日比野良彦

<技術研究賞（第1回） 1件>

平林 純（キヤノン株式会社）

<日本画像学会コニカミノルタ科学技術振興財団研究奨励賞（第9回） 1件>

藪 浩（東北大学）

研究題目：「有機・無機ハイブリッドにおける相分離構造を有する高分子微粒子の電子ペーパーへの応用」

#### (4) 年次大会(第114回研究討論会)

##### 「Imaging Conference JAPAN 2014 Fall Meeting」開催報告(関西委員会)

実行委員長：夏原敏哉、副実行委員長：金本成一

2014年11月21日(金)に京都工芸繊維大学(京都 松ヶ崎)にて、関西委員会の企画・運営による Imaging Conference Japan2014FallMeeting を開催した。本年度は、画像関連学会連合会の合同研究討論会として開催し、午前に口頭発表、午後はポスターセッションとしてショートプレゼンとポスター発表を実施致した。特にポスターセッションでは4学会の発表をテーマ毎に分類し、ポスター発表の場は同じ大会議室にて行なった。日本画像学会からは、口頭発表7件、ポスター11件、日本画像学会技術奨励賞記念講演3件の発表があり参加者は68名と昨年より増加致した。連合会全体のプログラムでは、口頭発表46件、ポスター発表46件で、4学会合わせての参加者は244名と大盛況でした。特に4学会のテーマが同時に展示されるポスター会場は、発表者を多くの参加者が囲み、学会の枠を超えて自由に質問し熱い議論が繰り広げられた。

本年は連合会としてのポスター賞も用意し、日本画像学会としては例年の編集委員の投票による編集委員長賞、参加者と実行委員の投票によるベストポスター賞も設定し下記の方が受賞されました。また、昼食時に各種分析機器メーカー様よりご提供頂いたお弁当を召し上がって頂きながら、計測機器の性能や仕様をPR頂くランチョンセミナーも実施しメーカー様、参加者の皆様からも好評を博した。

アンケートを参照すると8割以上の方が合同開催は有意義とのご評価で、来年度も継続することで進めます。一方で、プログラムや会場の工夫など改善要望があり、今後も各種施策を実施し、活発な議論の場を提供する。(参加者数68名:会員55名、非会員2名、学生11名、他学会参加者3名)。

日本画像学会からの論文投稿者に対して、ベストポスター賞と編集委員長賞を当日投票と審議の結果、下記の2つの論文を表彰した。

##### ベストポスター賞

「ナノ粒子を用いることで奥行感に優れた3D映像を自動生成するスクリーンの開発」

黒田章裕、青木逸、佐藤祝、前田秀一 (東海大学)

##### 編集委員長賞

「ウエットプロセスにより製膜したZnOを陰極とした逆構造有機発光ダイオードの作製」

高田誠<sup>1</sup>、古田卓<sup>1</sup>、小林隆史<sup>1</sup>、永瀬隆<sup>1</sup>、品川勉<sup>2</sup>、伊藤昌伸<sup>3</sup>、内藤裕義<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>大阪府立大学、<sup>2</sup>大阪市工研、<sup>3</sup>豊橋技科大)

**プログラムは本稿後半に記載。**

#### (5) 評議員会

2014年3月11日に東海大学校友会館(東京・霞が関)において開催し、2013年度事業報告、同財務報告、2014年度事業計画、同財務計画及びICJ2014概要説明と、それぞれの質疑応答を行った。

事業報告に関しては運営・編集・技術・企画・コンファレンス・広報・選奨・事業・国際交流・関西の各委員長からより詳細の説明を行った。

出席者は50名(評議員16名、顧問3名、役員他31名)で終了後、特別講演会、懇親会を行った。

## (6) 理事会

下記に示す日程で年間6回の理事会を開催し、学会運営・活性化に関する諸施策の審議、2014年度選奨、2014年度予算執行状況の確認、2015年度予算案の審議・承認等をおこなった。

・2014年

第1回：5月21日(水)午後3時～6時	霞会館
第2回：8月21日(木)午前10時～12時(午後：役員研修会)	霞会館
第3回：10月15日(水)午後3時～6時	霞会館
第4回：12月19日(金)午後3時～6時	霞会館

・2015年

第5回：2月12日(木)午後3時～6時	霞会館
第6回：3月12日(木)午後1時～3時	東海大学校友会館

2014年度の理事会活動で最も大きな比重を占めたものは、画像関連学会連合会の発足に伴う活動の推進である。連合会は4学会の会長を発起人として行う旨の同意を行い、同意書に発起人署名を行い4月1日をもって発足した。さらに4月25日に東京工業大学 蔵前会館ロイヤルブルーホールにて、記念技術交流会並びに発足記念パーティーを開催した。

参加者は4学会関係者に御来賓の7名を加えて46名であった。御来賓の方々は以下のとおりである。

映像情報メディア学会 黒田徹副会長，岩鼻幸男事務局長

日本図学会 山口泰会長，CG-ARTS協会 宮井あゆみ事務局長

(株)印刷学会出版部 中村幹社長，日本印刷技術協会 相馬謙一専任理事

JEITA 石井博之様

連合会の目的と主な活動アイテムは以下に示すものであり、特に2013年の秋季大会の相互乗り入れで開始した秋季年次大会の合同開催は専任の実行委員会を構築し、理事会における要望事項の抽出・審議並びに運営への協力体制構築等バックアップ活動を行うとともに、実行においては京都工芸繊維大学の多大なるご協力により成功にこぎつけた。詳細は Fall Meeting 報告とおりである。

目的： 画像関連科学・技術の深化と展開，及び，各学会の継続的かつ 発展的な学会活動の基盤構築

活動： 連合会による学会活動の実施

- ・年次大会の共同開催
- ・研究会，シンポジウム等の共催や共同運営，特に境界・新規領域 Printed Electronics，視覚特性に基づく画像技術・評価，画像処理，環境対策 etc
- ・チュートリアル・勉強会の開催
- ・アジアを発信源とする画像関連技術の新しい国際会議の定期開催

さらに、連合会においては共同研究会発足の第1弾として「3D技術タスクフォース」を日本画像学会を発起としてスタートさせた。

この連合会活動は2013年定時総会で発表した学会ビジョンの具現化の一つであり、本年の

理事研修会においては更なる学会ビジョンの実現を目指して、昨年発足した革新委員会を運営委員会に合同させ、より確実な実行体制の構築を行った。

ビジョン実現のアイテムを以下に絞って更なる革新運営に進むことになっている。

- 1) 学会の価値向上
- 2) 若手研究者・技術者の教育、育成への貢献
- 3) 画像関連学会連合会の積極的活用
- 4) 委員会ミッションの見直しと組織活性化

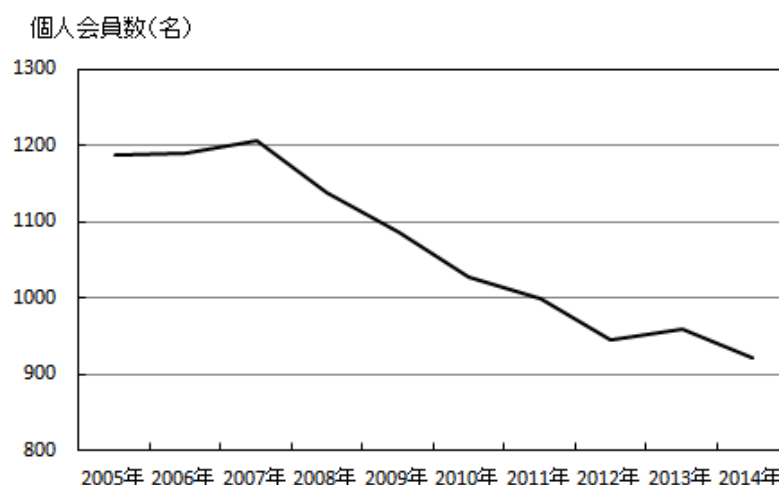
## (7) 事務局報告 事務局長 緒方信康

- ・ イベント関連では例年とおりの研究討論会、研究会、講習会、フリートーキング、イメージングカフェを開催した。イベントの開催回数 23 回、開催日数 26 日となり、前年より開催回数が 2 回増加した。有料参加者数についても前年を上回る結果（2013 年度=858 名、2014 年度=890 名）となった。
- ・ 学会誌の発行部数は会員数の増減に連動し、毎号 1500 部前後であり、年 6 回、編集委員会 印刷会社 発送会社経由で発行されており、毎号、同梱チラシの配付先管理、日程管理及び会員の増減や住所変更への対応を図っている。
- ・ イベント参加登録の Web 経由システムは全ての研究会、研究討論会、講習会で実施しており少額参加費のイメージングカフェ（自動返信システム）とフリートーキングのみメールベースでの参加登録を行っている。
- ・ 理事会、各種委員会・部会の開催件数は年間 100 件以上で活発な議論が交わされている。特に 4 月に発足した画像関連学会連合会代議員会や国際会議（ICAI）ではプログラム委員会や実行委員会が新たに追加された。

### ○年度別個人会員数の推移

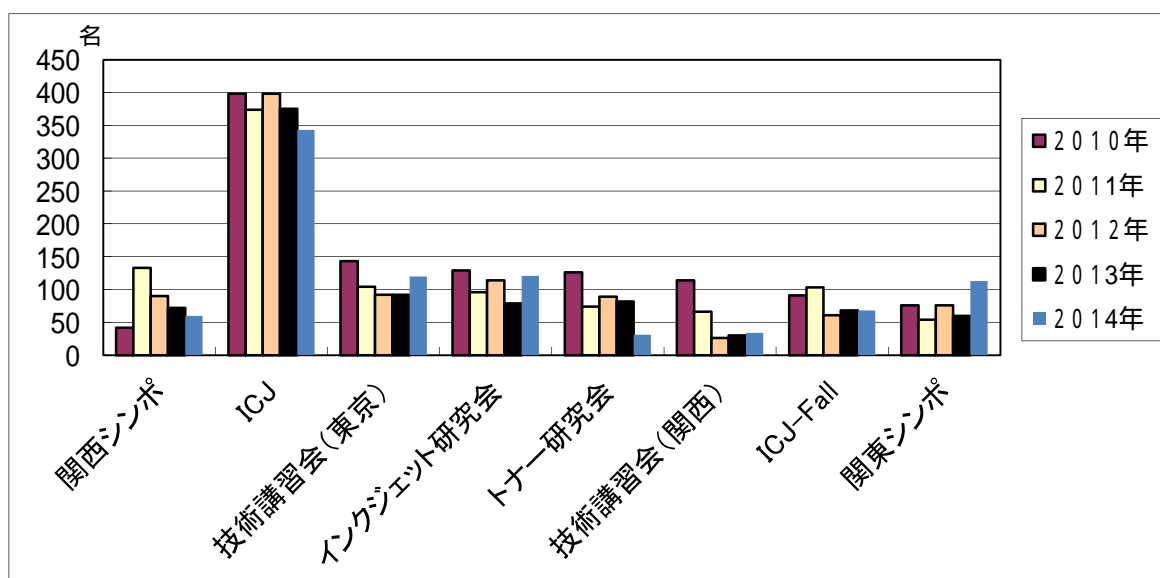
2005 年度～2014 年度末まで 10 年間の会員数推移を示す。2008 年から会員数の減少が続いており回復のきざしが見えない。

年度	個人会員数(名)
2005年	1188
2006年	1190
2007年	1206
2008年	1137
2009年	1087
2010年	1027
2011年	998
2012年	944
2013年	960
2014年	922



## ○学会の主なイベント参加者推移

2010年度～2014年度5年間の当学会が主催する年次大会、研究会、講習会など、主なイベントの有料参加者推移を示す。主要イベントの有料参加者総数は前年を若干上回った。



## (8) 運営委員会 委員長 竹内達夫 (キヤノン)

昨年3月末をもって永年運営委員長を務められていたブラザー工業株式会社 中居仁司様が理事を退任され、後任を竹内達夫(キヤノン)が引き継いだ。

運営委員会として例年取り学会活動の年間予定の作成、年6回の理事会の準備・議事進行・議事録作成、年次総会・評議員会の準備・運営など、本学会活動の運営全般を推進した。詳細は其々の報告をご参照されたい。この他に運営委員会が主導した2014年度の活動として、次の2点がある。

### (1) 役員研修会

・2014年8月21日(木) 霞会館にて役員研修会を開催した。昨年度学会内外に公開した学会ビジョンのさらなる深耕を目指し次の4テーマに分れて検討を行った。

- 1) 学会の価値向上
- 2) 若手研究者・技術者の教育、育成への貢献
- 3) 画像関連学会連合会の積極的活用
- 4) 委員会ミッションの見直しと組織活性化

・上記テーマごとのアクションアイテムは役員研修会当日にラップアップし、運営委員会と革新委員会合同で運営推進することとなり2014年10月15日第3回理事会から、その進捗を暫時報告することとした。(6)理事会の項で記述したが革新委員会は活動の実効性を上げる為に運営委員会に合同することとなった

### (2) 執行部会

・2014年度の執行部会は連合会が発足したことにより、主たる案件を連合会の運営、並びに2015年開催のICAI(The 1st International Conference on Advanced Imaging)における懸案事項の議論を中心にその活動を行った。

## (9) 編集委員会 委員長 中山信行 (富士ゼロックス)

編集委員会を7回(うち1回は年間編集計画作成のため,京都にて合宿を実施),フリート  
ーキング“Imaging Today”を2回開催し,学会誌年6冊を定時発行した.毎年1回,特定技  
術分野にテーマを絞って英文論文を募集するクラスタ論文誌も3回目となり,本年度は212  
号で「有機エレクトロニクス」をテーマとして発行した.今後も年1回のペースで発行する予  
定であるが,論文数低下傾向の改善に取り組んできている中で,本クラスタ論文誌の効果が表  
れてきている.今後はさらに,引用実績の増加にもつなげていく.

昨年度より,情報交換とコラボレーションなどを目的として開催している画像関連学会連  
合会編集委員長会議を,本年度は3回(2014年5月1日,2014年7月23日,2015年2月4日)  
開催した.電子化や英文化状況などの情報共有に加え,査読者の相互協力を開始し,また2015  
年初頭には,画像関連学会連合会特集記事(会長メッセージ,学会紹介)を各学会誌で掲載し  
た.

207号(Vol.53, No.1)2月刊,109頁,巻頭言(会長),原著論文4件,Advanced Technology  
「機能性炭素材料の剛性とその応用 - ナノカーボンを中心に - 」,教育講座「基礎から学ぶ紙  
の科学( )」,研究室訪問「星野勝義研究室 千葉大学 大学院融合科学研究科 情報科学専攻 画  
像マテリアルコース」,会報,会告,投稿案内,日本写真学会誌・日本印刷学会誌・画像電子  
学会誌・Journal of Imaging Science and Technology・影像科学与光化学の目次,画像閑話

208号(Vol.53, No.2)4月刊,62頁,原著論文1件,Imaging Today「3D技術の現在と未来」,  
教育講座「印刷工学の基礎( )」,研究室訪問「彌田超集積材料プロジェクト 東京工業大学 す  
ずかけ台キャンパス」,会報,会告,正誤表,日本画像学会誌投稿規程・原稿執筆要項,日本  
写真学会誌・日本印刷学会誌・画像電子学会誌・影像科学与光化学の目次,画像閑話

209号(Vol.53, No.3)6月刊,77頁,原著論文2件,Imaging Today「バイオミメティクス」,  
教育講座「印刷工学の基礎( )」,研究室訪問「大林賢太郎研究室 京都造形芸術大学 芸術学  
部 歴史遺産学科 文化財保存修復コース」,会報,会告,投稿案内,日本写真学会誌・日本印  
刷学会誌・画像電子学会誌・影像科学与光化学の目次,画像閑話

210号(Vol.53, No.4)8月刊,140頁,巻頭言(会長)原著論文3件,Imaging Today「画像  
修復・関連技術」,教育講座「印刷工学の基礎( )」,研究室訪問「宇都宮大学オプティクス  
教育研究センター」,2013年度学会表彰,一般社団法人日本画像学会第57回定時総会資料,  
会報,会告,投稿案内,日本印刷学会誌・画像電子学会誌・影像科学与光化学の目次,画像閑  
話

211号(Vol.53, No.5)10月刊,83頁,原著論文1件,解説1件,Imaging Today「サイネー  
ジ最前線」,教育講座「印刷工学の基礎( )」,研究室訪問「正道寺勉研究室 日本工業大学 大  
学院工学研究科 電子情報メディア専攻」,会報,会告,投稿案内,日本写真学会誌・日本印刷  
学会誌・画像電子学会誌・Journal of Imaging Science and Technology・影像科学与光化学  
の目次,画像閑話

212号(Vol.53, No.6)12月刊,90頁,速報1件,原著論文1件,ノート1件,クラスタ論  
文"Overview and Recent Progress in Organic Electronics Materials and Devices," 7 Invited  
Reviews,教育講座「印刷工学の基礎( )」,研究室訪問「星野坦之研究室 東京電機大学 未  
来科学部 情報メディア学科 画像システム研究室」,会報,会告,投稿案内,日本写真学会誌・  
日本印刷学会誌・画像電子学会誌・Journal of Imaging Science and Technology・影像科学  
与光化学の目次,画像閑話

第 25 回フリートーキング “ Imaging Today ” 「最先端の電子写真シミュレーション・解析技術」

2014 年 6 月 27 日（金）開催，東京工業大学すずかけホール（横浜市），参加者 36 名

第 26 回フリートーキング “ Imaging Today ” 「画像修復・関連技術」

2015 年 1 月 30 日（金）開催，早稲田大学西早稲田キャンパス（新宿区），参加者 25 名

## (10) 技術委員会 委員長 面谷信 (東海大学)

### 1. 技術委員会全体の活動状況

- (ア) 2008 年度よりの委員長 面谷信、副委員長 木村正利の体制を、2014 年度も継続。
- (イ) 2014 年 10 月 22 日（水）に第 1 回主査会議を開催し、役員研修会で提起された技術委員会関連の課題等について議論を行った。2014 年度は、2015 年 1 月 23 日（金）（技術委員会総会と同日）に第 2 回目の主査会議を開催した。
- (ウ) 年一度の総会は、委員全員が顔を合わせ交流する場および各部会開催の機会として、2014 年度は 2015 年 1 月 23 日（金）に開催した（総会出席回答者 70 名、情報交換会出席回答者 50 名）。総会に先だて同日に 9 部会が開催された。
- (エ) ICJ 2014 のワークショップとして、技術委員会からの企画で 2 件のワークショップ（インクジェット技術部会主催「高速インクジェットの現状と今後- プロダクション市場での成功の鍵は? -」、デジタルファブ리케이션部会主催「焼成不要の銀ナノインクを用いた電子回路作成～ペンを使って自由に回路を描いてみよう～」）を開催した。
- (オ) 2014 年 4 月～2015 年 3 月の間にシンポジウム 1 回（電子写真技術部会：12/5）、技術研究会 4 回（サーマル記録技術部会：第 120 回(8/19)、インクジェット技術部会：第 121 回(9/26)、トナー技術部会：第 122 回(10/10)、電子ペーパー部会：第 123 回(10/28))、を開催した。なお 2013 年度まで例年開催してきた画像 4 学会合同研究会については 2014 年度から新企画の秋の連合会（画像関連 4 学会）にその使命を譲ったと考え、2014 年度には発展的に解消とした。
- (カ) 第 77 回技術講習会(7/12：東京)にて、シミュレーション技術部会主導でシミュレーション実習を実施、また インクジェット技術部会主導でインクジェット基礎講座の 1 日担当で、技術講習会の内容充実に貢献した。
- (キ) 選奨対象候補のエントリー数増加をめざし、技術委員会として各部会に積極的に候補抽出を督促し、技術賞、コニカミノルタ研究奨励賞、会長特賞の候補抽出に貢献した。
- (ク) 学会の新しい守備範囲のヒントを得ることを目的として、「気になる技術トップ 10」のリスト作成を目指し、各部会から候補技術項目を募集し主査会議で集約した。本結果については次段階として例えば学会フェローメンバーによる議論を行ってはどうかとの提案を行った。
- (ケ) 部会の再編可能性として、2014 年度は画像評価部会と画像感性部会が合併も視野に合同活動を行っており、一方でデジタルファブ리케이션部会とイメージング材料部会の合同案の議論を開始した。

### 2. 各部会の活動状況

#### 1) 画像評価技術部会

- ・3回の部会（第179～181回）を開催した。
- ・第180回の会合では画像感性に関するワークショップ(ICJ2014)を計画したが、多くのテーマが拮据しむしろ研究会としての実施がふさわしいとの総意となった。  
また、類似の活動を目指す画像感性部会より合同で活動する勧誘があり、合同での部会開催を行い、お互いの活動を紹介することに賛同した。
- ・第181回の会合は画像感性部会と合同で開催し、お互いの活動と計画を紹介した。  
まず、合同での活動の第一歩として画像感性の勉強会を開催することになった。  
その後、講師を依頼した本吉先生が体調を崩された為、日程調整が遅れていた合同勉強会は1月26日に開催され、参考となる興味深いお話を伺うことができた。
- ・最終的には合同で画像感性に関する研究会開催を目指す予定である。

## 2) 電子写真技術部会

- ・定例会会4回、シンポジウム企画会議を3回、研究室訪問を2回（創価大 松山先生、京大 井手先生）開催した。
- ・イメージングカフェ年末スペシャル（12月12日(金)）において、「イメージング技術2014徹底討論」にて「電子写真技術2014年とこれから」と題して、永瀬主査（キヤノン）が発表した。
- ・創価大学 学生向け静電気記録実験を含めた電子写真技術講座を開催した。
- ・日本画像学会シンポジウム「デジタル印刷の現状と最新電子写真技術」（12月6日、於：発明会館）を企画・開催した。

## 3) トナー技術部会

定例会議を4回、合宿会議と研究会を各1回開催し、またシミュレーション技術部会と合同の公開部会を1回開催した。

主な活動項目は、以下の4つである。

- 3.1 標準キャリアの性能を保証するための、標準キャリアの帯電量の検定  
標準キャリアの帯電量検定トナー「N-01T」の新ロット移行に伴い、新ロット「N-01T」を用いて標準キャリアN-01とN-02の帯電量の検定を行い、9月に検定値を改訂した。
- 3.2 トナー関連技術の深耕につながる技術研究会の企画及び開催  
「摩擦帯電・付着力・流動性の解析技術、樹脂&金属粉体の応用技術」をテーマとし、5つの講演を集めた研究会を2014年10月10日に開催した。
- 3.3 標準キャリアの応用事例をシミュレーション部会との合同の公開部会で報告  
「トナーの帯電と静電付着力に関して」に関して部会参加者から報告を行ってもらい議論する形式の公開部会とし、トナー部会からは、「標準キャリア種に応じた粉体の表面電位変化とSPM表面観察」の観察結果報告を行った。
- 3.4 大学/研究機関/他社見学による委員の知識・知見の拡大  
11月の部会をクライアント静岡工場（掛川）で開催し、顔料工場の工程見学と品質評価の見学を行った。

## 4) 画像処理技術部会

- ・総会に付随した部会の開催だけで、4学会合同の秋季大会の発足に伴い4学会合同研究会も無くなったこともあり、活性化を図れず、ほとんど活動を行わなかった。
- ・画像処理関係の教科書については、ターゲットが難しいとの議論もあり、進め切れてい

ないが、継続して検討を進めていく。

- ・出力再現の手前の処理としてページデータをラスターイメージに変換する処理がある。現在この部分で、簡易なバリエーション印刷対応のフォーマットの標準化が進められているが、フォントセットでのエンベッドが要求されており、日本語の場合、大きな問題となる。技術的にどのような対応が可能かを検討することも重要と考えており、2015年度は、若手を入れてのワーキングの開催等を企画し、活性化を図っていく。
- ・プリンタのビジネス応用の進展に伴い、出力媒体の多様化が進んでいる。これに伴い出力画像処理も自ずから変わってくると考えており、今後研究会、ワークショップ等を企画したいと考えている。

#### 5) 画像技術用語部会

- ・「画像技術用語集」の継続的な改訂作業として、現行用語の改訂および新規用語の提案・抽出、それらの編集作業を中心に活動した。
- ・「画像技術用語集 Web 版（一般公開版）」の随時更新を行った。
- ・「画像技術用語集 Web 版（会員様向け）」の正式公開に向け準備を進めている。
- ・一般書籍としての出版計画の見直しを進めている。

#### 6) インクジェット技術部会

- ・部会会合を6回開催した(2015年1月末時点)。
- ・ICJ2014において『高速インクジェットの現状と今後』- プロダクション市場での成功の鍵は? -というテーマでWork Shopを開催した。40名の方に参加していただき、この市場の現状を共有するとともに、今後の成功の鍵を議論した。
- ・Work Shopを受け、『高速インクジェットの現状と今後』- プロダクション市場での成功の鍵は? -という同じテーマで9/26に発明会館ホールで技術研究会を開催し、各社の取り組み状況を講演していただいた。参加人数(講演者、実行委員除く)は121名であった。議論を通じ、ハードの進化だけでなくデジタルとしての良さを活かした使い方を提供すること、さらにそれに応える技術開発を行うことが今後の成功の鍵になると感じた。
- ・7月の技術講習会(東京)において、2008年に出版した書籍「インクジェット」の内容に沿い、著者が講師となったインクジェット基礎講座を終日担当した。2015年度も同じ体制で開催したいと思う。
- ・インクジェット技術を取り入れて文化財の修復をされている東京藝術大学(宮廻教授)を、DF部会、画像学会有志とともに訪問し、説明を受け見学した。
- ・Imaging Caféの年末スペシャル(12/12)において、2014年度のインクジェットの新製品、技術動向をまとめて発表した。
- ・合宿研修会として2月に産業用インクジェット装置の開発、販売をされている和歌山の紀州技研工業を訪問することを予定している。
- ・2015年度の技術研究会は9月11日(金)に発明会館ホールで開催予定である。

#### 7) 電子ペーパー部会

- ・2014年10月28日(火)、東京工業大学蔵前会館ロイヤルブルーホールにて、電子ペーパー部会主催の技術研究会「電子ペーパー研究会」を開催した。
- ・定例部会を7回開催した。
- ・合宿を2014年8月22日(金)~23日(土)に実施した。1日目は、新規な分子配向技術を応用した光セキュリティデバイスの開発などを研究されている秋田大学の山口研究室を見学し、液晶技術について講義および実演をしていただいた。2日目は部会課題「第二世代の電子ペーパー」に関して討議を行い、まとめた結果を上記「電子ペーパー研究会」で発表を実施した。

#### 8) サーマル記録技術部会

- ・2014 年は 5/29 に SONY 様の品川本社を、7/31 に SONY 様厚木テクノロジーセンターを訪問し、研究会の準備を中心に部会を実施した。また本年は 10/31 に宮城県大崎市のアルプス電気(株)古川工場で合宿部会を実施した。研究会の振り返りとともに次回研究会について議論を行った。部会の後は、付近にある紅葉の名所：鳴子挾を散策した。しかし、なかなか全員が集まることは難しく、最近では電話会議と併用した部会となっている。
- ・次回研究会は、「サーマル記録の歴史や原理の掘り起こし」をテーマとして、そこから創造される新しいサーマル記録や、記録原理の多用途への応用等を議論する予定である。

#### 9) イメージング材料部会

- ・当部会は、広く画像技術を支えるイメージング材料、将来のイメージング技術につながる新材料ならびにそれらを用いたイメージングデバイス、システムに関する研究開発動向をフォローし、技術研究会を通じて当学会における材料開発研究の活性化を図ることを目的としているが、活動が滞っている。部会の刷新を図り、早急に活動の再起動に努める。解決策として他部会との研究会等の共同開催を目指したい。

#### 10) シミュレーション技術部会

- ・イメージングプロセスに関わるシミュレーション技術の動向探索と啓蒙活動を通して、シミュレーション技術の活性化を目指すことを部会ミッションとして活動を進め、部会を 5 回開催した。内 2 回は部会外からの意見を求める目的で、公開部会とした。
- ・公開部会 ” トナー付着力の徹底討論 2 ” (3/20 早稲田大学、トナー技術部会と協業) を開催した。
- ・ICJ2013 で開催された Workshop-3 : ” トナー静電付着力の徹底討論 ” の第 2 段を公開部会という形で実施した (参加者 28 名+部会メンバー 10 名)。
- ・次の実習候補である ” OpenFOAM による IJ シミュレーション勉強会 ” を公開部会として開催した。(10/21 早稲田大学、参加者は部会メンバー 8 名 + 部会外メンバー 10 名)
- ・2014 年夏の第 77 回技術講習会(7/12)にてシミュレーション実習を実施した (参加者 9 名)。本実習は 2014 年度で最後とし、2015 年度は新しいシミュレーション実習を開催予定である。

#### 11) デジタルファブリケーション部会

- ・ICJ2014 でワークショップ WS-2 を実施  
2014 年 6 月 12 日に東京工業大学すずかけホールで開催された ICJ2014 でワークショップを企画開催した。「焼成不要の銀ナノインクを用いた電子回路作成～ペンを使って自由に回路を描いてみよう～」というテーマで、川原 圭博 (東京大学)、清水 信哉 (AgIC 株式会社)の両氏に技術解説と参加者の実習指導をしていただいた (参加人数 24 名)。
- ・NIP30/Digital Fabrication 2014 への運営参加  
2014 年 9 月 7 日 9 月 11 日に米国フィラデルフィアで開催された IS&T NIP30/DF2014 にて Committee とセッション運営に参加した (Publications Chair : 藤井, Program Chair (Asia & Oceania): 鈴木(幸), Session Chairs : 小田, 鈴木(幸), 西, 藤井, 梅津)。
- ・第 37 回イメージングカフェでの話題提供  
2014 年 12 月 12 日に開催されたイメージングカフェ「イメージング技術 2014 徹底討論」で 2014 年の DF 技術の話題提供を行った。

## 12) 画像感性部会

- ・画像感性に関する基礎的な知識を部会員間で共有することを目指した勉強会を企画・開催した。勉強会は、同様なニーズが画像評価技術部会にもあることを踏まえ、画像評価技術部会と合同開催とした。講師は、東京大学大学院総合文化研究科の本吉勇先生を招聘し、人間の視覚のくせや、それが生じる背景などの講義をいただいた。

## (11) 企画委員会 委員長 酒井真理 (東京大学)

### ● イメージングカフェの企画および運営

交流空間『イメージングカフェ』も開始から4年目に入り、学会個人会員の間で月度企画として定着したと思われる。本年度は昨年度と同様に、夏の納涼祭スペシャルと冬の年末スペシャルを含め、10回のイメージングカフェを開催した。夏の納涼祭スペシャルでは、昨今高い注目と急速な広がりを見せている3Dプリンター技術の最先端モノづくりへの展開を、八十島プロシードの河野浩之様にお話しいただいた。冬の年末スペシャルでは、例年通り「イメージング技術徹底討論」と銘打って、この1年を振り返ったイメージング技術のトピックスの紹介と討論を行った。今年度の講師は、技術委員会の関連部会に協力をお願いし、技術部会として年度のテクノロジーを総括していただいた。

本年度は、非会員に対して、参加機会の開放と受付の簡略化のため、アンケートによる妥当な参加費の回答を参考にして、以下のように参加受付方法と参加費の改定を行った。

本年度の『イメージングカフェ』開催要項および開催内容は以下の通りである。

- 会場 恵比寿カルフル、東工大蔵前会館（第33回、第37回）
- 参加費 会員1,000円、非会員2,000円（1ドリンク付き）
- 参加資格 会員は日本画像学会個人会員（維持会員は含まず）、その他は非会員として受け付ける
- 開催内容
  - 第30回 2014年4月18日 “標準”、その影響力とメカニズムの考察  
～技術で勝っても、ビジネスで負けてしまう原因は？～  
…………… 坂田 靖（富士ゼロックス）
  - 第31回 2014年5月23日 世界一受けたい“テクニカル・プレゼン”の授業  
…………… 平林 純（キヤノン）
  - 第32回 2014年6月27日 セルロースナノファイバーの特長とその用途  
～バイオマス素材で環境負荷の少ない循環型社会を～  
…………… 河崎 雅行（日本製紙）
  - 第33回 2014年7月25日 3Dプリンターの現状と3Dテクノロジーを活用した  
最先端のものづくりとは  
…………… 河野 浩之（八十島プロシード）
  - 第34回 2014年9月5日 電子ペーパー事業創生とその後  
…………… 鈴木 薫（一ツ橋大学）
  - 第35回 2014年10月3日 新しい地形可視化手法『赤色立体地図』の発想と可能性  
…………… 千葉 達朗（アジア航測）

- 第 36 回 2014 年 11 月 7 日 リアリティ豊かな映像を目指して  
 ~ 視覚から感動へ 高ルメートルと微小視差映像の魅力 ~  
 ..... 黒木 義彦 (コンフォートビジョン研究所)
- 第 37 回 2014 年 12 月 12 日 イメージング技術 2014 徹底討論  
 ..... 永瀬 幸雄 (キヤノン) 電子写真技術部会  
 ..... 高田 雅之 (ブラザー) インクジェット技術部会  
 ..... 都甲 康夫 電子ペーパー部会  
 ..... 酒井 真理 (東京大学) デジファブ部会
- 第 38 回 2015 年 2 月 6 日 心理学の視点から捉える “ 画像 ”  
 ..... 小俣 貴宣 (NTT データ経営研究所)
- 第 39 回 2015 年 3 月 13 日 ペーパーエレクトロニクス  
 ..... 江前敏晴 (筑波大学)

● 開催結果

今後開催される 2 回を除いた第 30 回から第 37 回までの合計 8 回の開催で、延べ会員 102 名、非会員 36 名、合計 138 名の参加者を得た (講師・企画委員を含まず)。

● ICJ2014 でのワークショップの企画

企画委員会として ICJ2014 のワークショップのテーマの取りまとめを担当した。

● 新領域開拓のための活動

● 技術紹介見学会の開催

東京藝術大学 「感動」を創造する芸術と科学技術による共感覚イノベーション

訪問先：東京藝術大学、宮廻教授、平特任講師

開催日：2014 年 11 月 17 日 16:00 ~ 17:30

美術品の復元・複製技術の見学会を企画し、インクジェット技術部会、デジタルファブリケーション部会、感性部会に参加を呼びかけ実施した。参加者 17 名。

● 画像関連学会連合会での 3D 技術調査

3D 技術に関する学会活動を検討するため、画像関連学会連合会の各学会に声を掛けて、3D タスクフォースを立ち上げた。委員 10 名で、10 月より月 1 回の会合で検討をすすめている。

## (12) コンファレンス委員会 委員長 阿部隆夫 (信州大学)

・コンファレンス委員会は次の構成で活動した。委員長：阿部隆夫(信州大)、委員：大西 勝(ミマキエンジニアリング)、小林範久(千葉大)、竹内達夫(キヤノン)、山崎 弘(元コニカミノルタ)。

・2014 年 6 月 11 日(水)、12 日(木)、13 日(金)の 3 日間、東京工業大学すずかけ台キャンパスすずかけホールにおいて “ Imaging Conference JAPAN 2014 ” [日本画像学会年次大会・日本画像学会研究討論会(第 113 回)]を開催した。本会の運営幹事会社としての担当をコニカミノルタ(株)にお願いした。実行委員長は市原美幸氏、同副委員長は服部好弘氏および橋本清文氏。

・2015 年度の年次大会は、日本画像学会、日本写真学会、画像電子学会、映像情報メディア学会、日本印刷学会の 5 学会が共催する国際会議、すなわち、ICAI (The 1st International

Conference on Advanced Imaging)として実施する予定で準備を進めた。会期は2015年6月17日(水)、18日(木)、19日(金)。会場は学術総合センター一橋記念講堂(東京都千代田区一ツ橋2-1-2)。ICAIの準備に関して、前記5学会参加の企画推進委員会(後にプログラム委員会に改称、委員長:日本画像学会コンファレンス委員長・阿部隆夫、事務局:日本画像学会参与・深瀬康司)を正式に発足させ、各学会間の調整、スコープやトラック構成の立案と決定、開催支援金獲得、海外招聘研究者の決定、一般発表論文の募集、大会プログラムの編成などを行った。一般論文、キーノート、招待講演を合わせて合計200件超の規模になる。組織委員長は画像学会会長(半那純一)が務める。会議の実務には5学会から選出されたメンバーからなる実行委員会が当たる(実行委員長:日本画像学会理事、キヤノン・竹内達夫氏)。実行委員会にはキヤノン(株)の多くの方々に中核のメンバーとして入っていただくことをお願いした。開催支援金については、NICT(独立行政法人情報通信研究機構)に申請を行い、採択されて500万円の助成金を受けることになった。

・2013年度にICJの企画に関する常設の委員会を発足させたが、2014年度の活動は休止した。理由は、上記のICAI開催により、次回のICJ開催が2016年度になるため。なお、本委員会の構成は次の通りである。委員長は日本画像学会会長。委員は、技術委員長やコンファレンス委員長などの年次大会遂行関係委員会委員長、技術委員会の各部会中心的活動者、当該年度および次年度の運営幹事会社(実行委員会副委員長等)。また、必要に応じて有用な人材を委員に加える。

### (13) 事業委員会 委員長 大橋豊史 (三菱化学)

- ・標準キャリア(担当:トナー技術部会)に関しては、新規標準品頒布はないがコンスタントに売れており、今年度の頒布数ではN-01が全体の70%、N-02が全体の18%の比率である。
- ・テストチャート(担当:画像評価技術部会)に関しては、新規学会チャート頒布はなく、従来のテストチャートの今年度頒布数では前年に極端な落ち込みがあったが、今年度は前々年度の6割程度まで回復しており、数年毎に大きく変動する傾向が続いている。
- ・2008年6月に刊行した「デジタルプリンタ技術」シリーズ4巻は売上が鈍化しているが年間トータルで約350冊が出ていると思われる。  
4巻の累計の実売数と市場在庫はつぎのとおりである。

(提供:東京電機大学出版局 2014年12月現在)

電子写真	4刷	3451部(前年+130)
電子ペーパー	1刷	1774部(前年+18)
インクジェット	4刷	3403部(前年+126)
ケミカルトナー	2刷	1947部(前年+78)

#### [ 協賛依頼 ]

2014年

- ・5/21-23 第25回「電磁力関連のダイナミクス」シンポジウム  
“岩手県民情報交流センター”

日本AEM学会

- ・ 5/23-25 日本色彩学会第 45 回全国大会[福岡] ' 14  
“九州大学大橋キャンパス” 日本色彩学会
- ・ 6/26-27 第 22 回品質工学研究会発表大会「新しい品質工学の方向性」  
“きゅりあん” 品質工学会
- ・ 6/29-30 2014 年度画像電子学会第 42 回年次大会「革新技術が拓く新たな画像・メディアの世界」  
“早稲田大学 国際会議場” 画像電子学会
- ・ 7/11 2014 印刷・情報記録・表示研究会基礎講座「基礎から学ぶ有機半導体/無機半導体」  
“産業技術総合研究所 臨海副都心センター本館” 高分子学会
- ・ 7/14 色材分散講座 - 分散の基礎と応用 -  
“大阪科学技術センター” 色材協会関西支部
- ・ 8/5-6 第 47 回塗料基礎講座  
“大阪科学技術センター” 色材協会関西支部
- ・ 9/7-11 NIP30 “Philadelphia, Pennsylvania, USA” IS&T
- ・ 9/8-9 第 38 回静電気学会全国大会  
“広島国際大学・呉キャンパス” 静電気学会
- ・ 9/30 色材協会関係コロイド化学セミナー - 界面活性剤を利用した製品設計を中心に -  
“日本大学理学部駿河台キャンパス” 色材協会
- ・ 10/7-10 IMAGE ELECTRONICS AND VISUAL COMPUTING (IEVC2014)  
“Centara Grand Beach Resort Samui Koh Samui, Thailand” 画像電子学会
- ・ 11/5 色材講演会「色材における界面制御と新素材」  
“大阪科学技術センター” 色材協会関西支部
- ・ 11/7 平成 26 年度画像保存セミナー “東京工芸大学・芸術情報館” 日本写真学会
- ・ 11/11 第 39 回顔料物性講座 “東京塗料会館” 色材協会関東支部
- ・ 11/14-15 日本色彩学会第 2 回秋の大会 “清水文化会館” 日本色彩学会
- ・ 11/19 第 22 回カメラ技術セミナー  
“国立オリンピック記念青少年総合センター” 日本写真学会
- ・ 12/1-2 第 11 回色材 IT 講座「発展する産業用インクジェット」  
“日本大学理工学部 CST ホール” 色材協会
- ・ 12/3-5 IDW '14 (第 21 回ディスプレイ国際ワークショップ)  
“新潟コンベンションセンター” 映像情報メディア学会、SID
- ・ 12/3-6 第 7 回シーグラフアジア 2014  
“Shenzhen Convention Centre, CHINA” シーグラフアジア
- ・ 12/11 E-COLLOID: 第 3 回先端エレクトロニクスのためのコロイド・界面化学  
“化学会館 7F ホール” 日本化学会
- ・ 12/18-19 第 23 回微粒化シンポジウム  
“弘前大学文京町キャンパス” 日本液体微粒化学会、日本エネルギー学会
- ・ 12/19 2014 印刷・情報記録・表示シンポジウム 「プリンテッド・エレクトロニクス用有機材料の本命は何か? - 高分子 vs. 低分子 -」  
“産業技術総合研究所 臨海副都心センター本館” 高分子学会

## 2015年

- ・ 2/4-6 page2015「変わるニーズ。変わるビジネス。」  
“サンシャインシティ” 日本印刷技術協会
- ・ 2/5 page2015 オープンイベント 技術アカデミー  
“サンシャインシティ・文化会館 7F” 日本写真学会、日本印刷技術協会
- ・ 2/28 第48回光学五学会関西支部連合講演会「光で感じる動と静」  
“大阪市立大学文化交流センター・ホール”  
日本光学会、照明学会、日本色彩学会、日本分光学会、日本写真学会、  
各関西支部
- ・ 3/12-13 シンポジウム「モバイル'15」  
“名古屋大学 東山キャンパス” モバイル学会

### (14) 広報委員会 委員長 長山智男 (リコー)

- ・ 広報委員会では、会員への情報サービス提供活動として、日本画像学会のホームページ（URL：<http://www.isj-imaging.org/isj.html>）の継続的な管理運営を行った。1997年に開設して以来、610,000件を超えるアクセス数となっている（2015年2月現在）。
- ・ 本年度は、学会ホームページの英文化の整備を進め、2015年2月より順次公開している。また、技術委員会との連携により、学会の技術部会の活動内容を紹介するページを準備・公開した。
- ・ 会員の個人ページの積極利用については、継続検討中であり、会員からの要望を広く聞き取った後に具体的な施策へと展開したい。

### (15) 選奨委員会 委員長 内藤裕義 (大阪府立大学)

- ・ 選奨規定に則り、学会賞、功労賞、論文賞、研究奨励賞、会長特賞、技術賞、技術研究賞、日本画像学会コニカミノルタ科学技術振興財団研究奨励賞について、それぞれ選考委員会を組織して受賞候補者を厳正に選考し理事会に推薦した。

### (16) 国際交流委員会 委員長 半那純一 (東京工業大学)

- ・ 本学会と米国画像学会共催になる International Conference on Digital Fabrication and Digital Printing (NIP30、2014年9月7日～11月、米国 Pennsylvania州 Philadelphia) の開催、および、本国際会議を通じた本学会と IS&T との交流に協力した。
- ・ 本年6月に予定する第1回目となる International Conference on Advanced Imaging 開催に向けて、韓国、中国、タイを含む周辺諸国への広報、参加依頼を行った。また、引き続きアジア諸国の画像関連学会の活動状況の調査と相互協、国際交流のあり方について検討を進めている。

## (17) 関西委員会 委員長 北岡義隆 (パナソニックシステムネットワークス)

### 関西シンポジウム 2014

実行委員長：水畑浩司、副実行委員長：山本雅志

2014年5月16日(金)、ハートピア京都(京都 丸太町)にて、2014年度関西シンポジウムを開催した。

「画像技術の限界を探る - これまでの高画質化の歩みと今後の方向性 - 」というテーマのもと、電子写真技術の高画質に焦点を置きこれまでの各社と取り組みを総括頂き、更なる高画質化を達成するために必要な技術についてパネルディスカッションにて議論を深めた。

信州大学の阿部先生から、学術研究テーマとしての画質に関する基調講演を頂き、電子写真を中心とした各社のプロセス技術やデバイスの進歩を振り返り、今後の方向性についてもご紹介頂いた。また、本年度は画像関連学会連合会が発足したこともあり、印刷学会よりのご紹介で富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ社様よりインクジェット印刷機の技術内容についても解説頂いた。

パネルディスカッションでは、ご講演の中でお聞きしたかったことを更に掘り下げ、今後の技術革新の方向性、講師の皆様の夢などについて、有意義な議論があった(参加者 60 名: 会員 55 名、非会員 5 名)。

#### 【技術発表テーマと講師の皆様】

- |  |                              |
|--|------------------------------|
| ・画質という研究開発対象 - その意味、意義、価値 -              | 阿部隆夫(信州大学)                   |
| ・現像プロセスにおける高画質化                          | 日比野勝(キヤノン)                   |
| ・高画質化における転写技術の課題と動向                      | 青木信次(リコー)                    |
| ・定着プロセスと高画質定着のポイント                       | 上原康博(富士ゼロックス)                |
| ・現像剤から高画質へのアプローチ                         | 大柴知美(コニカミノルタ)                |
| ・電子写真用紙の開発動向                             | 芳野康洋(三菱製紙)                   |
| ・インクジェットによる高画質印刷への挑戦 - Jet Press720の場合 - | 宮城安利(富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ) |

#### 【パネルディスカッション】

座長：山本雅志(リコー) パネラー：講演者のみなさん

「画像技術の限界を探る」 - これまでの高画質化の歩みと今後の方向性 -

### 第 78 回 技術講習会

実行委員長：夏原敏哉、副実行委員長：金本成一

2014年11月20日(木)に京都工芸繊維大学(京都 松ヶ崎)において、日本画像学会関西委員会の企画・運営による技術講習会を開催いたしました。本年度は画像関連学会連合会の発足を記念して、連合会共同の秋のイベントとして、日本画像学会の技術講習会に併設して、画像電子学会の講習会、日本写真学会の講習会も同日に行なわれました。

日本画像学会第 78 回技術講習会は、「電子写真の高速・高画質化技術の基礎と応用」～プロダクションプリントに繋ぐビジネス展開～というテーマのもと、プロダクションプリントのビジネス事例、現像・転写の高速技術、1パス両面印刷を実現する高速プリンタの解説と、各種分析機器メーカーの技術展示も頂き、有意義な議論ができました。アンケートを分析すると良かったが半数を超え、概ねご満足頂けたようで、次回聞きたいテーマとしては、市場情報と印刷エレクトロニクスとの回答が多く、来年のテーマ選定の参考に致します。

また、昨年同様、測定機器の展示も行い参加者、メーカー様ともに貴重な情報交換の場を提供しました。特に測定機器見学の時間をプログラムに設定したことから、殆どの参加者が展示コーナーに足を運ばれ、メ

一かさまからも非常に有意義だったとお声がありました。

ご参加された方々には、技術講習会の内容を業務に活かし益々ご活躍されることを願っております。  
(参加者名 34 名: 会員 31 名、非会員 3 名)。

第 78 回技術講習会 実行委員長 夏原 敏哉(コニカミノルタ)

【技術発表テーマと講師の皆様】

- ・プロダクションプリントビジネスの動向について 吉岡東吾(富士ゼロックス株式会社)
- ・プロダクションプリントにおける高速高画質現像技術 峯岸なつ子(コニカミノルタ株式会社)
- ・転写プロセスの基礎と高速機に関する技術動向について 杉浦健治(株式会社リコー)
- ・計測機器展示  
オリンパス(株)、コニカミノルタ(株)、トレックジャパン(株)、(株)フォトロン、マルバーン、日立工機(株)、  
(株)電通国際情報サービス、(株)アルメディア、五洋紙工(株)、パイオニア(株)、CG-ARTS 協会
- ・Oce VarioPrint6000 Ultra+のご紹介 角谷賢治(キヤノン MJ 株式会社)
- ・デジタル印刷市場の現状と今後 中西秀彦(中西印刷株式会社)

## Imaging Conference JAPAN 2014 Fall Meeting ( 第 114 回 研究 討 論 会 )

実行委員長：夏原敏哉、副実行委員長：金本成一

2014 年 11 月 21 日(金)に京都工芸繊維大学(京都 松ヶ崎)にて、関西委員会の企画・運営による Imaging Conference Japan2014FallMeeting を開催いたしました。本年度は、画像関連学会連合会の合同研究討論会として開催し、午前に口頭発表、午後はポスターセッションとしてショートプレゼンとポスター発表を実施致しました。特にポスターセッションでは4学会の発表をテーマ毎に分類し、ポスター発表の場は同じ大会議室にて行ないました。日本画像学会からは、口頭発表 7 件、ポスター11 件、日本画像学会技術奨励賞記念講演 3 件の発表があり参加者は 68 名と昨年より増加致しました。連合会全体のプログラムでは、口頭発表 46 件、ポスター発表 46 件で、4学会合わせての参加者は 244 名と大盛況でした。特に4学会のテーマが同時に展示されるポスター会場は、発表者を多くの参加者が囲み、学会の枠を超えて自由に質問し熱い議論が繰り広げられました。

本年は連合会としてのポスター賞も用意し、日本画像学会としては例年の編集委員の投票による編集委員長賞、参加者と実行委員の投票によるベストポスター賞も設定し下記の方が受賞されました。また、昼食時に各種分析機器メーカー様よりご提供頂いたお弁当を召し上がって頂きながら、計測機器の性能や仕様を PR 頂くランチョンセミナーも実施しメーカー様、参加者の皆様からも好評を博しました。

アンケートを参照すると8割以上の方が合同開催は有意義とのご評価で、来年度も継続することで進めます。一方で、プログラムや会場の工夫など改善要望があり、今後も各種施策を実施し、活発な議論の場を提供して参ります。(参加者数 68 名: 会員 55 名、非会員 2 名、学生 11 名、他学会参加者 3 名)。

日本画像学会からの論文投稿者に対して、ベストポスター賞と編集委員長賞を当日投票と審議の結果、下記の2つの論文を表彰しました。

ベストポスター賞

「ナノ粒子を用いることで奥行感に優れた3D映像を自動生成するスクリーンの開発」

黒田章裕、青木逸、佐藤祝、前田秀一

(東海大学)

編集委員長賞

「ウエットプロセスにより製膜した ZnO を陰極とした逆構造有機発光ダイオードの作製」

高田誠<sup>1</sup>、古田卓<sup>1</sup>、小林隆史<sup>1</sup>、永瀬隆<sup>1</sup>、品川勉<sup>2</sup>、伊藤昌伸<sup>3</sup>、内藤裕義<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>大阪府立大学、<sup>2</sup>大阪市工研、<sup>3</sup>豊橋技科大)

プログラムは本稿後半に記載。

### **(18) 財務委員会報告 委員長 辰巳節次 (富士フイルム)**

- ・ 2013 年度収支決算を行った。会計士による財務チェックと監事による監査を受けた後、理事会の決議を経て総会にて 2013 年度決算の承認を得た。
- ・ 2014 年度予算は、次のような方針で立案し、理事会の承認を得た。通常収支として収支均衡を目指す。収入 / 支出とも直近数年の実績を考慮して決める。長年参加費が据え置かれていた各種イベント参加費と試験標準品頒布の値上げを実施する。通常外支出として ICAI2015 国際学会準備費、昨年度見送られた新規出版物作成費、用語集改訂費を計上する。
- ・ 会計処理規程に則って 2014 年度半期決算を行い、会計士による財務チェックと監事による監査を受けた後、理事会に報告し承認を得た。
- ・ 2014 年度末の状況としては、前年度に対し会費収入は減少したが、その他の事業収支は改善し、また、一部支出見送りもあったため、当初予算に対し事業収支は約 430 万円の黒字、事業活動収支絶対額は約 40 万円赤字となった。

### **(19) 特別講演会**

2015 年 3 月 12 日 評議員会の後、東京芸術大学特任講師 平 諭一郎 様による「感動を創造する芸術と科学技術による共感覚イノベーション ~ アナログとデジタルのハイブリッド技術 ~」の特別講演会を開催した。

### **(20) 技術研究会**

2014 年 8 月 19 日(火)午後に日本印刷会館にて、サーマル記録技術部会主催による 2014 年度第 1 回の技術研究会 (通算 120 回) を開催した (参加者 35 名: 会員 18 名, 非会員 9 名, 学生 2 名, 講師 6 名)。

テーマ『サーマル記録技術の基礎と応用』講演テーマ、講演者は以下の通り。総括としてパネルディスカッションを行い、サーマル記録の基礎の部分や今後の応用展開への期待について議論がなされた。

1. 基調講演 「サーマル記録の可能性」 日達 昭夫 氏 (物質・材料研究機構)
2. 「昇華型熱転写記録材基礎」 寺嶋 尚久 氏 (富士フイルム株式会社)
3. 「サーマル記録の熱伝導解析基礎」 福江 高志 氏 (岩手大学)
4. 「サーマル記録技術の応用 アミューズメント、ID カードへの展開」  
大山 渉 氏 (大日本印刷株式会社)
5. 「プリンタブルエレクトロニクスの技術考察及びその現状と将来展望」  
眞島 修 氏 (マジマ研究所)
6. 「中国市場における熱転写記録技術」 瀬戸 忠雄 氏 (TTP コンサルタント)
7. 総括: パネルディスカッション (パネラー: 講演者、サーマル部会委員 五十嵐 氏)

2014年9月26日(金) 発明会館ホール(東京都港区虎ノ門2-9-14)にてインクジェット技術部会の2014年度第2回日本画像学会技術研究会(通算第121回)を開催した(参加者121名:会員89名,非会員31名,学生1名)。

テーマ『高速インクジェットの現状と今後』 - プロダクション市場における成功の鍵は - 講演テーマ,講演者は以下のとおり。

1. デジタル印刷の活用方法について - 市場が求める販促ツールとデジタル印刷  
小野 裕二 (電通オンデマンドグラフィック)
2. 富士フイルムにおける高速・高画質インクジェット枚葉印刷機( Jet Press720 シリーズ) 開発  
森田 直之 (富士フイルム)
3. 23"x29.5"サイズ対応インクジェット枚葉印刷機 KM-1 の開発  
小幡 満 (コニカミノルタ)
4. 富士ゼロックスにおけるインクジェット連帳機商品開発の歴史と今後の展望  
三原 徹 (富士ゼロックス)
5. キヤノンの高速連帳インクジェットプリンターのご紹介  
宮崎 進 (キヤノンプロダクションプリンティングシステムズ)
6. 高速インクジェットの成功の鍵を握る用紙開発  
名越 応昇 (三菱製紙)

2014年10月10日(金) 虎の門『発明会館』(東京都港区虎の門2-9-14)において、トナー技術部会企画で2014年度第3回日本画像学会技術研究会(通算第122回)を開催した。参加者は31名(講演者・委員除く)で、例年に比べ参加人数が非常に少ない研究会であった。

テーマ『摩擦帯電・付着力・流動性の解析技術、樹脂&金属粉体の応用技術』

#### 【プログラム】

1. SPM計測と電界シミュレーションによるトナー付着力の解明  
門永 雅史 (シミュレーション技術部会)
2. トナー帯電量 - 付着力分布同時計測による静電付着メカニズム解析  
稲葉 伸英 (富士ゼロックス)
3. トナー付着力計測機器の最新状況と各種トナーの測定事例  
島田 泰拓 (ナノサイズ)
4. 振動細管法による粒子の流動特性評価と電場を利用した摩擦帯電の特性評価及び制御  
安田 正俊 (IMP)
5. AM技術(3Dプリンタ)の基礎から最新技術、市場の最新動向まで  
早野 誠治(アспект)

2014年10月28日(火), 東京工業大学蔵前会館ロイヤルブルーホールにて, 電子ペーパー部会主催の技術研究会「電子ペーパー研究会」(2014年度第3回日本画像学会技術研究会(通算第123回))を開催した。今回の研究会では、『電子ペーパーの次のターゲットはなにか?』と題して、電子ペーパーの応用の広がり、電子ペーパー表示の最新技術、電子ペーパーに活用可能なバックプレーンの作製技術について以下の7件の講演を行った。また、参加者と直接議論できる場として、電子ペーパーの最新の製品と技術の展示の時間を設定した。参加者は65名(会員・維持会員17名,協賛他学会会員9名,非会員16名,学生5名,講演者7名,部会委員11名)だった。

#### 【講演】

「デジタルペーパー開発の狙いと今後の期待」  
塩浦 邦浩 (ソニー)

- 「ツイストボール型電子ペーパー」 滝沢 容一（綜研化学）  
「全印刷有機 TFT アレイフィルムの連続製造ライン技術」西 眞一（JAPER/コニカミノルタ）  
「手書き情報に着目した教育ツールとしての電子ペーパーの可能性」森 隆知（立命館大学）  
「自動車用調光デバイスの技術と変遷」 仲保 純一（東海理化）  
「特許から見た電子ペーパーの動向と今後の提言 - 平成 23 年度特許出願技術動向調査報告」  
磯野 光司（特許庁）  
「第 2 世代の電子ペーパー」 都甲 康夫（電子ペーパー部会）

【展示】

ソニー，綜研化学，東海理化，丸文の 4 社

## (21) シンポジウム

2014 年 12 月 05 日(金) 発明会館（東京都港区虎ノ門 2-9-14）にて技術委員会電子写真技術部会企画・運営によるシンポジウムを開催した。

【題目】「デジタル印刷の現状と最新電子写真技術」

～新領域 パッケージ&ライトプロダクション そろい踏み～

【参加者】130名(会員96名、非会員16名、学生1名、講師7名、委員10名)

【講演内容】

1. PAGE, IPEX2014 に見るデジタル印刷のトレンドと課題 堀本 邦芳（ジーエーシティ）
2. HP Indigo デジタル印刷機  
～デジタルオフセット印刷が可能にするアプリケーションの多様性～ 田口 兼多（日本HP）
3. MICROLINE VINCI C941dn  
～ホワイトトナー・クリアトナーに対応した5ステーションプリンター～ 須永 直樹（沖データ）
4. Pro C5110S/5100S の小型・軽量化技術  
～プロダクション市場における画質・用紙対応力要求との両立～ 吉田 健（リコー）
5. ImagePRESS C800/C700  
～高品位な印刷と多彩なメディア対応力を実現～ 富澤 岳志（キヤノン）
6. bizhub PRESS C1070  
～画質安定性と信頼性の向上技術～ 石塚 一輝（コニカミノルタ）
7. Versant 2100 Press  
～高生産性をコンパクトに実現～ 林 良宏（富士ゼロックス）

関西シンポジウムについては（17）関西委員会の項に記載

## (22) 技術講習会開催報告 事業委員長 大橋 豊史（三菱化学）

### 第77回技術講習会

・2014年7月17日(木)，18日(金)の両日，学術総合センター（東京千代田区）にて、第77回技術講習会を開催した。昨年度までのアンケート調査から入社3年未満の参加者が主であること、また、参加目的が「基礎知識の習得」であることから、第77回も「基礎重視」の構成とした。サブタイトルを前回同様、「第一線で活躍する講師陣による画像技術の基礎講座」とし、「基礎教育講座」を継続、基礎重視に趣をおいた。さらに今回は電子写真分野とインク

ジェット分野を2会場に分け、それぞれで入門・各論講習を実施した。インクジェット分野では書籍「インクジェット」の執筆者に最新トピック、解説をいただく講習内容とした。2日間の講習内容は以下。

1日目の第1会場では電子写真入門講習・各論を、第2会場ではインクジェットの入門講習・各論を行ったが、聴講人数比はほぼ同等、インクジェットに対する関心が高いことが伺える。また、二つの会場を移動する人が少ないことから、入門・各論講座の構成としては二分する実施方法がよいと思われる。

2日目は「電子写真/インクジェットに関する技術講習・各論」と昨年からの継続の「基礎教育講座」に分け、最新トピックスの詳細な解説とともに、幅広い電子写真/インクジェット関連の基盤技術、基礎技術習得に役立つ内容となった。また、シミュレーション実習講習は、電子写真の基礎知識を学んだ後の方が、内容理解に繋がるとのことから、2日目に実施した。スプレッドシートを用いたシミュレーション実習講習は本年度で最後であるが、来年度はOpenFORMを用いた新たなシミュレーション実習を開催予定している。

有料参加者数は120名(会員・維持会員91名、非会員25名、学生4名)で、前年度より9名増となり、2年連続で増加。1企業での複数名(3名以上)参加は減少傾向であるものの、逆に1~2名参加の企業や各種団体が増加、多くの方々に「若手育成の場」として認知されていることが伺える。例年通り、20代の参加者が全体の46%(前回64%)と多く、若手の人材育成に十分活用はされているが、4年連続で減少していた30代の参加者が30%に増加、経験年数も3~5年(22%)、10年以上(16%)と幅広い年齢層のご参加もいただいている。これは、大半がインクジェット集中講座の聴講と考えられ(参加者の担当業務はインクジェットが35%と過去最高、電子写真は59%)、今後も継続的な参加を促す講習内容を検討することが必要である。一方、「基礎知識の習得」目的は例年並みに88%と高く、より充実した基礎講座、基礎知識の深化を追及する必要がある。

シミュレーション実習講習は本年度で最後であったが、7名の参加をいただいた。

会場内スペースを使った展示会は前年度の7社から6社(トクダ・ジャパン株式会社様、エミル・ワテックス株式会社様、株式会社フォト様の常連3社様に加え、新規に出展いただいたニッタ株式会社様、日立工機株式会社様、株式会社ケー・エヌ・エフ・ジャパン様)のご参加をいただいた。

2015年度も引き続き基礎知識習得に重きをおき、日本画像学会技術委員会との連携をさらに密にし、若手技術者の専門技術習得の場となれるような内容、企画を検討していく。

・1日目 第1会場(一橋講堂) 電子写真:入門講習・各論

1. 電子写真の基礎原理と $\mu$ ピクセル設計 服部 好弘様 (コニカミノルタ)
2. 電子写真用現像剤基礎知識 高木 慎平様 (富士ゼロックス)
3. 電子写真関連展示会社様からのショートプレゼンテーション 各社展示会社様
4. 電子写真感光体の基礎~動作確認と各層の機能紹介 大垣 晴信様 (キャノン)
5. 転写 $\mu$ ピクセルの基礎 渋谷 暁様 (コニカミノルタ)
6. 定着 $\mu$ ピクセルの基礎および省エネ定着技術の動向について 蜂須賀 利治様 (リコー)

・1日目 第2会場(中会議室2・3・4) インクジェット:入門講習・各論

7. インクジェットの方式の分類と特長、課題と対応 藤井 雅彦様 (富士ゼロックス)

- |                                     |                  |
|-------------------------------------|------------------|
| 8. インクジェット：入門講習・各論（システム技術）          | 江口 裕俊様（リコー）      |
| 9. インクジェットヘッド技術                     | 中島 一浩様（キヤノン）     |
| 10. インクジェット関連展示会社様からのショートプレゼンテーション  | 各社展示会社様          |
| 11. インクノズル技術                        | 岡田 真一様（DIC）      |
| 12. インクジェットプリンタの画像形成技術              | 角谷 繁明様（セイコーエプソン） |
| 13. デジタルファブリケーション ～イメージング技術の製造への応用～ | 酒井 真理様（東京大学）     |

・2日目 第1会場（一橋講堂） 基礎教育講座

- |                             |              |
|-----------------------------|--------------|
| 14. レオロジーの基礎と画像技術への応用       | 大坪 泰文様（千葉大）  |
| 15. 摩擦帯電機構を理解するための基礎        | 星野 勝義様（千葉大）  |
| 16. 用紙搬送に関わる設計者が陥りやすい勘違いと実際 | 山浦 弘 様（東工大）  |
| 17. 化学工学の基礎                 | 高橋 伸英様（信州大学） |

・2日目 第2会場（中会議室2・3・4）

電子写真/インクジェットに関する技術講習・各論

- |                            |                  |
|----------------------------|------------------|
| 18. 高速度カメラの最新活用事例          | 内野 真喜様（フォトロン）    |
| 19. 静電気力顕微鏡を用いた静電現象測定事例の紹介 | 東尾 順平様（トレックジャパン） |
| 20. 商用高速インクジェット技術          | 藤井 雅彦様（富士ゼロックス）  |
| 21. 紙の基本特性とその製造方法          | 近藤 裕介様（日本製紙）     |
| 22. 視覚特性・色彩工学の基礎           | 一谷 修司様（コニカミノルタ）  |
| 23. 電子写真プロセスの画像安定化技術       | 田中 智様（富士ゼロックス）   |
| 24. 画像機器における環境配慮           | 酒井 幸弘様（コニカミノルタ）  |

・2日目 第3会場（中会議室1） シミュレーション実演実習

- |                                 |                 |
|---------------------------------|-----------------|
| 26. イントロダクション                   | 川本 広行様（早稲田大学）   |
| 27. 電界計算理論講義                    | 中山 信行様（富士ゼロックス） |
| 28. スプレッドシートによるお手軽電界計算（定常問題）    | 仲野 正雄様（キヤノン）    |
| 29. 熱伝導計算理論講義                   | 中山 信行様（富士ゼロックス） |
| 30. 有限差分法による定着プロセスの熱伝導計算（非定常問題） | 伊藤 朋之様（富士ゼロックス） |

技術講習会実行委員会 委員長： 黒須 久雄（リコー）

委員：大柴 知美（コニカミノルタ）、萬道 律雄（王子製紙）、吉澤 孝一（セイコーエプソン）、加賀田 尚義（セイコーエプソン）、吉田 稔（東芝テック）、和田 光央（三菱化学）、笠間 稔（富士ゼロックス）、稲葉 繁（富士ゼロックス）、伊東 展之（キヤノン）、山崎 弘（元コニカミノルタ）

事業委員長：大橋 豊史（三菱化学） 事業委員：上原 康博（富士ゼロックス）

電子写真シミュレーション実演講習は、シミュレーション技術部会（門永主査：リコー）との共同開催

**第78回技術講習会は（17）関西支部の項に記載。**

## (23) 2014年度 学会概要、役員名簿、各委員会名簿

### 学会概要

創立年月 1958年6月30日

事務局 東京都中野区本町2丁目9番地5号(東京工芸大学内)

会員数 個人会員 922名 (2014年度入会者数 113名、退会者数 75名)

維持会員 68社 (2014年度入会数 2社、退会数 1社)

2015年3月末現在

### 2014年度学会役員

#### 会長

半那純一 (東京工業大学)

#### 副会長

面谷 信 (東海大学)

竹内達夫 (キヤノン)

#### 理事

青木彦治 (ブラザー工業)

近藤浩人 (京セラドキュメントソリューションズ)

#### 監事

浅野晋一 (王子ホールディングス)

酒井真理 (東京大学)

中島一浩 (キヤノン)

阿部隆夫 (信州大学)

佐藤利文 (東京工芸大学)

藤井雅彦 (富士ゼロックス)

梅津信二郎 (早稲田大学)

佐野隆之 (巴川製紙所)

大倉浩和 (三菱製紙)

辰巳節次 (富士フイルム)

#### 幹事

大西 勝 (ミマキエンジニアリング)

内藤裕義 (大阪府立大学)

三矢輝章 (リコー)

大橋豊史 (三菱化学)

中山信行 (富士ゼロックス)

笠井利博 (東芝テック)

長山智男 (リコー)

北岡義隆 (パナソニック)

西野俊夫 (シャープ)

北久保 茂 (日本工業大学)

橋本清文 (コニカミノルタ)

小島洋樹 (キヤノンファインテック)

服部好弘 (コニカミノルタ)

小林範久 (千葉大学)

2015年3月末現在

#### 顧問

窪田 啓次郎 (成蹊大学)

高橋恭介 (東海大学)

平倉浩治 (HiRAK)

北村孝司 (千葉大学)

高橋 通 (元キヤノン)

横山正明 (大阪大学)

小門 宏 (東京工業大学)

田嶋紀雄 (元コニカミノルタ)

坂田俊文 (東海大学)

中山喜萬 (大阪大学)

2015年3月末現在

#### 評議員

(社名五十音順)

秋山 悟 (アイメックス)

片桐 譲 (山東華菱電子)

江間秋彦 (日清製粉グループ)

森下浩延 (出光興産)

油井勇飛 (シャープ)

石崎雅也 (日本製紙)

山田 公哉 (岩崎通信機)

津田雅也 (SCREENホールディングス)

萩野明秀 (日本ゼオン)

田口哲也 (エステー産業)

田島 啓 (住友ゴム工業)

小林弘道 (パウダーテック)

清水良浩 (王子ホールディングス)

高橋 潤 (住友理工)

見方康範 (バンドー化学)

石原 徹 (沖データ)

金谷美春 (セイコーエプソン)

上田彦二 (藤倉化成)

登 正治 (沖デジタルイメージング)

秋田寛哉 (綜研化学)

山内和海 (富士ゼロックス)

山手 修 (オリエント化学工業)

原田 修 (大日精化工業)

小野 博 (富士ゼロックスメディアソリューションズ)

永澤敦志 (花王)

武衛弘之 (DIC)

寺崎成史 (富士電機)

山崎修一 (カシオ計算機)

研究開発センター(大日本印刷)

依田 章 (富士フイルム)

太田譲二 (桂川電機)

小林 透 (高砂香料工業)

駒崎岳夫 (富士フイルムイメージングシステムズ)

平賀祐二 (キーテック)

大藤正浩 (中央合成化学)

円道博毅 (富士薬品工業)

小林克彰	(キヤノン)	百武勇人	(電子化工)	各務克巳	(ブラザー工業)
石永博之	(キヤノンファインテック)	藤尾 昇	(東京機械製作所)	笠原 郁	(保土ヶ谷化学工業)
浅井 保	(京セラ)	笠井利博	(東芝テック)	小川 格	(三菱化学)
飯島圭司	(京セラドキュメントソリューションズ)	寶來 茂	(戸田工業)	小池直正	(三菱製紙)
中野 勇	((独)国立印刷局研究所)	佐藤伸一	(東洋インキ)	大西 勝	(ミマキエンジニアリング)
朝武 敦	(コニカミノルタ)	稲垣 潤	(東レエンジニアリング)	吉野裕司	(武藤工業)
松野尚司	(コニカミノルタ)	事務機器審査長 (特許庁)		西田昭憲	(村田機械)
浅井真吾	(コニカミノルタ)	安藤富雄	(凸版印刷)	鈴木 一	(山梨電子工業)
風見 豊	(サカタインクス)	越村 淳	(巴川製紙所)	村山 久夫	(リコー)
佐藤昌宏	(サムスン日本研究所)	上原利夫	(トレック・ジャパン)	Motor Kao	(SOLIDLITE)
岩田将和	(三洋化成工業)	田中章裕	(内外カーボンインキ)		

(平成27年1月末現在の登録名簿にて記載)

### 編集委員会

委員長		副委員長		副委員長	
中山信行	(富士ゼロックス)	美才治隆	(リコー)	龍田岳一	(富士フィルム)
編集幹事		編集副幹事			
中村一希	(千葉大学)	鈴木弘治	(元リコー)		
委員					
池田光弘	(三菱製紙)	黒沢俊晴	(元松下電器)	内藤裕義	(大阪府立大学)
岩田 基	(大阪府立大学)	高橋正樹	(東芝テック)	長山智男	(リコー)
梅津信二郎	(早稲田大学)	竹内達夫	(キヤノン)	西野俊夫	(シャープ)
北久保 茂	(日本工業大学)	堤 眞洋	(京セラドキュメントソリューションズ)	前田秀一	(東海大学)
木村正利	(富士ゼロックス)	朝武 敦	(コニカミノルタ)	山崎 弘	(元コニカミノルタ)

### 技術委員会

委員長		副委員長	
面谷 信	(東海大学)	木村正利	(富士ゼロックス)

### 画像評価技術部会

主査					
伊藤哲也	(ビジネス機械・情報システム産業協会)				
委員					
一谷修司	(コニカミノルタ)	駒崎岳夫	(富士フィルムイメージングシステムズ)	曽根拓郎	(リコー)
井出 収	(富士ゼロックス)	斎藤 恵	(キヤノン)	山田英治	(富士フィルムイメージングプロテック)

#### 電子写真技術部会

##### 主 査

永瀬幸雄 (キヤノン)

##### 委 員

笠井利博 (東芝テック)	服部好弘 (コニカミノルタ)	渡辺靖晃 (富士ゼロックス)
小森智裕 (高性能駆動装置開発)	藤井章照 (三菱化学)	渡辺 猛 (東芝テック)
島田知幸 (リコー)	松代博之 (リコー)	
中村博史 (富士ゼロックス)	校條 健 (キヤノン)	

#### トナー技術部会

##### 主 査

多田達也 (キヤノン)

##### 委 員

上原利夫 (トレック・ジャパン)	小林弘道 (パウダーテック)	星野勝義 (千葉大学)
太田英樹 (京セラドキュメントソリューションズ)	沢山 昇 (リコー)	星野坦之 (東京電機大学)
木村正利 (富士ゼロックス)	鈴木千秋 (富士ゼロックス)	
久保貴史 (花王)	原田大輔 (クラリアント・ジャパン)	

#### 画像処理技術部会

##### 主 査

松木 眞 (元NTTクオリス)

##### 委 員

阿部淑人 (新潟県工業技術総合研究所)	角谷繁明 (セイコーエプソン)	蒔田 剛 (キヤノン)
石井 昭 (富士ゼロックス)	小寺宏暉 (千葉大学)	
大久保 宏美 (リコー)	関沢秀和 (画像電子学会)	

#### 画像技術用語部会

##### 主 査

北久保茂 (日本工業大学)

##### 委 員

五十嵐 明 (新化学技術推進協会)	多田達也 (キヤノン)	星野坦之 (東京電機大学)
酒井真理 (東京大学)	西村克彦 (クロスマインズ)	堀田吉彦 (リコー)
坂谷一臣 (コニカミノルタ)	野田明彦 (富士ゼロックス)	谷中一寿 (神奈川工科大学)
正道寺 勉 (日本工業大学)	藤井雅彦 (富士ゼロックス)	

#### インクジェット技術部会

##### 主 査

藤井雅彦 (富士ゼロックス)

##### 委 員

江口裕俊 (リコー)	酒井真理 (東京大学)	中島一浩 (キヤノン)
岡田真一 (DIC)	高田雅之 (ブラザー工業)	名越応昇 (三菱製紙)
奥田貞直 (理想科学工業)	竹本清彦 (シャチハタ)	
木村里至 (セイコーエプソン)	朝武 敦 (コニカミノルタ)	

#### 電子ペーパー部会

##### 主査

堀田吉彦 (リコー)

##### アドバイザー

北村孝司 (千葉大学)

##### 委員

雨宮 功 (東芝)

小林範久 (千葉大学)

橋本圭介 (E Ink)

植田秀昭 (ダイソー)

佐野隆之 (巴川製紙所)

前田秀一 (東海大学)

面谷 信 (東海大学)

鈴木 明 (千葉大学)

森川 尚 (富士ゼロックス)

川瀬健夫 (日本触媒)

都甲康夫 (スタンレー電気)

八代 徹 (リコー)

#### サーマル記録技術部会

##### 主査

寺尾博年 (アルプス電気)

##### 委員

五十嵐 明 (新化学技術推進協会)

中西雅寿 (ローム)

渡邊和宏 (京セラ)

井本和信 (大日本印刷)

藤井豊子 (ソニー)

寺嶋尚久 (富士フイルム)

眞島 修 (マジマ研究所)

#### イメージング材料部会

##### 主査

横山正明 (大阪大学)

##### 委員

岡野光俊 (東京工芸大学)

内藤裕義 (大阪府立大学)

半那純一 (東京工業大学)

小林範久 (千葉大学)

長山智男 (リコー)

星野勝義 (千葉大学)

#### シミュレーション技術部会

##### 主査

門永雅史 (リコー)

##### 委員

伊藤朋之 (富士ゼロックス)

仲野正雄 (キヤノン)

平林 純 (キヤノン)

加川哲哉 (コニカミノルタ)

中山信行 (富士ゼロックス)

前田昌孝 (ブラザー工業)

川本広行 (早稲田大学)

長谷部 恵 (富士ゼロックス)

村社純一 (富士通研究所)

#### デジタルファブ리케이션部会

##### 主査

酒井真理 (東京大学)

##### 委員

梅津信二郎 (早稲田大学)

鈴木幸栄 (リコー)

藤井雅彦 (富士ゼロックス)

小田正明 (アルバック)

染谷隆夫 (東京大学)

鈴木 明 (千葉大学)

西 眞一 (JAPER)

#### 画像感性部会

##### 主査

五十嵐 明 (新化学技術推進協会)

##### 委員

鎰谷賢治 (リコー)

多田達也 (キヤノン)

横山正明 (大阪大学)

北久保 茂 (日本工業大学)

服部好弘 (コニカミノルタ)

木村正利 (富士ゼロックス)

松木 眞 (元NTTクオリス)

竹内達夫 (キヤノン)

宮田美都子 (京セラドキュメントソリューションズ)

## コンファレンス委員会

### 委員長

阿部隆夫 (信州大学)

### 委員

大西 勝 (ミマキエンジニアリング) 竹内達夫 (キヤノン) 山崎 弘 (元コニカミノルタ)  
小林範久 (千葉大学)

## 事業委員会

### 委員長

大橋豊史 (三菱化学)

### 委員

上原康博 (富士ゼロックス)

### 学会標準品部会

画像評価技術部会(伊藤主査)およびトナー技術部会(多田主査)と連携

### 講習会部会

シミュレーション技術部会(門永主査)、インクジェット技術部会(藤井主査)と連携

講習会実行委員長 黒須久雄 (リコー)

### 講習会実行委員

伊東 展之 (キヤノン) 萬道律雄 (王子ホールディングス) 加賀田 尚義 (セイコーエプソン)  
稲葉 繁 (富士ゼロックス) 和田光央 (三菱化学) 吉田 稔 (東芝テック)  
笠間 稔 (富士ゼロックス) 大柴 知美 (コニカミノルタ) 山崎 弘 (元コニカミノルタ)  
吉澤孝一 (セイコーエプソン)

## 運営委員会

### 委員長

竹内達夫 (キヤノン)

### 副委員長

橋本 清文 (コニカミノルタ)

### 副委員長

小島洋樹 (キヤノンファインテック)

### 委員

近藤 浩人 (京セラドキュメントソリューションズ) 北久保 茂 (日本工業大学) 大橋豊史 (三菱化学)  
大倉浩和 (三菱製紙) 中山信行 (富士ゼロックス) 長山 智男 (リコー)  
面谷 信 (東海大学) 半那 純一 (東京工業大学) 山崎 弘 (元コニカミノルタ)

注: 2014年8月より革新委員会は運営委員会に合体いたしました。

## 関西委員会

### 委員長

北岡義隆 (パナソニック)

### 委員

足立克己 (シャープ) 荘所義弘 (村田機械) 松坂修二 (京都大学)  
石黒秀明 (三菱製紙) 高島祐二 (ハイランドテック) 見方康範 (バンドー化学)  
奥田勝己 (京セラ) 内藤裕義 (大阪府立大学) 水畑浩司 (花王)  
金本成一 (ブラザー工業) 中山喜萬 (大阪大学) 山本雅志 (リコー)  
加藤智久 (三洋化成工業) 長江 偉 (三菱電機) 横山正明 (大阪大学)  
狩野 篤 (京セラドキュメントソリューションズ) 夏原敏哉 (コニカミノルタ)

### 選奨委員会

#### 委員長

内藤裕義 (大阪府立大学)

#### 委員

阿部隆夫 (信州大学)

大橋豊史 (三菱化学)

面谷 信 (東海大学)

北岡義隆 (パナソニック)

酒井真理 (東京大学)

竹内達夫 (キヤノン)

辰巳節次 (富士フイルム)

中山信行 (富士ゼロックス)

長山智男 (リコー)

夏原敏哉 (コニカミノルタ)

服部好弘 (コニカミノルタ)

半那純一 (東京工業大学)

### 財務委員会

#### 委員長

辰巳節次 (富士フイルム)

#### 委員

浅野晋一 (王子ホールディングス)

笠井利博 (東芝テック)

服部好弘 (コニカミノルタ)

### 国際交流委員会

#### 委員長

半那純一 (東京工業大学)

#### 委員

岡 建樹 (コニカミノルタ)

北村孝司 (千葉大学)

竹内 学 (ユーテック)

中山喜萬 (大阪大学)

星野坦之 (東京電機大学)

### 広報委員会

#### 委員長

長山智男 (リコー)

#### 委員

木村正利 (富士ゼロックス)

内藤裕義 (大阪府立大学)

#### 副委員長

佐藤利文 (東京工芸大学)

中島一浩 (キヤノン)

服部好弘 (コニカミノルタ)

渡辺靖晃 (富士ゼロックス)

### 企画委員会

#### 委員長

酒井真理 (東京大学)

#### 委員

石井 昭 (富士ゼロックス)

名越応昇 (三菱製紙)

北岡義隆 (パナソニック)

中島一浩 (キヤノン)

服部好弘 (コニカミノルタ)

堀田吉彦 (リコー)

森下浩延 (出光興産)

(24) 2014年度 学会暦

2014年度学会暦

		2014年												2015年		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
金						1										
土						2			1							
日						3			2			1				
月						4	1		3	文化の日		2				
火					1	5	2		4			3				
水					2	6	3	1	5			4				
木					3	7	4	2	6			5				
金					4	8	5	3	7	イメーティングカフェ		6	イメーティングカフェ			
土					5	9	6	4	8	関東シンポ		7				
日					6	10	7	5	9			8				
月					7	11	8	6	10	NIP30		9				
火					8	12	9	7	11	NIP30		10				
水					9	13	10	8	12	NIP30		11				
木					10	14	11	9	13	NIP30		12	第5回理事会			
金					11	15	12	10	14	トナー技術		13	イメーティングカフェ			
土					12	16	13	11	15	211号発送		14				
日					13	17	14	12	16			15				
月					14	18	15	13	17	休養の日		16				
火					15	19	16	14	18			17				
水					16	20	17	15	19	第9回理事会		18				
木					17	21	18	16	20			19				
金					18	22	19	17	21	関西講習会		20				
土					19	23	20	18	22	合同秋期大会		21				
日					20	24	21	19	23	第4回理事会		22	番分の日			
月					21	25	22	20	24			23				
火					22	26	23	21	25	勤労感謝の日		24				
水					23	27	24	22	26			25				
木					24	28	25	23	27	公開討論会		26				
金					25	29	26	24	28			27				
土					26	30	27	25	29	インクジェット		28				
日					27	31	28	26	30			29				
月					28		29	27				30				
火					29		30	28		電子ペーパー		31				
水					30			29								
木					31			30								
金								31								
土																
日																
月																
火																
水																
木																
金																
土																
日																
月																
火																
水																
木																
金																
土																
日																
月																
火																
水																
木																
金																
土																
日																
月																
火																
水																
木																
金																
土																
日																
月																
火																
水																
木																
金																
土																
日																
月																
火																
水																
木																
金																
土																
日																
月																
火																
水																
木																
金																
土																
日																
月																
火																
水																
木																
金																
土																
日																
月																
火																
水																
木																
金																
土																
日																
月																
火																
水																
木																
金																
土																
日																
月																
火																
水																
木																
金																
土																
日																
月																
火																
水																
木																
金																
土																
日																
月																
火																
水																
木																
金																
土																
日																
月																
火																
水																
木																
金																
土																
日																
月																
火																
水																
木																
金																
土																
日																
月																
火																
水					</											